

支部大会初戦

10月26日（日）新人戦第4支部大会初戦（2回戦）である小平西高校戦が行われました。

高島 75-66 小平西

過去5年間の同大会で3回目の対戦となるチームです。過去2回はベスト4決め、ベスト8決めと上位回戦での対戦でしたが、今回はいきなり初戦から当たることとなりました。

前半は速い展開からのゴール下シュート、リバウンドシュート、3Pシュートと多彩なオフェンスで得点を重ね12点リードで折り返します。

しかし、後半に入ると流れは一変、高島の得点が止まっている間にみるみるリードは縮まり、第3クォーター終盤には逆転を許してしまいます。

第4クォーターに入るとアウトサイドシュートを中心に再度逆転に成功するも、再び追いつかれる苦しい展開。同点で迎えた残り2分58秒、トップからの3Pシュートを決め再びリードを奪うも予断を許さない厳しい時間が続きます。

勝負を決めるビッグプレー

67対64で迎えた残り2分37秒、勝利を大きく手繰り寄せるビッグプレーが出ます。

高島の選手が相手チームのパスをスティールして、そのままDFのいないゴール目指して1マン速攻に行きます。しかし、そこは勝負のかかった重要な局面、相手DFも全力で追いかけて、後ろから必死のブロックに跳びます。結果としてレイアップは苦しい体勢となり、放たれたシュートはリングからこぼれてしまいます。

この場面で高島のフォローに入る選手は足を止めることなく、後ろから追いかけることを怠りませんでした。リングからこぼれたボールはフォローに入った選手によって拾われ、そのままフリーでゴール下のシュートに繋がります。このプレーで点差は5点に広がり、大きく勝利に近づくこととなりました。

技術的に難しいプレーではありませんが、ゲーム終盤の体力的に一番厳しい時間帯になかなかできることはありません。つい足を止めてしまいがちな場面で、フォローを怠らず献身的に追いかける姿勢が高島の勝利を呼び込みました。

日々の取り組みを見ている私は断言します。苦しい場面で彼がフォローを怠らず、勝負を決めるプレーにつながったことは絶対に偶然ではありません。どんな練習でも手を抜くことなく、自身のできることに全力で取り組んでいる選手が、厳しい場面でも「いつも通りのハードワーク」でチームを勝利に導く大きな仕事をやってのけるのです。

改めて大切なのは日々の取り組み

小平西戦の勝利はチームにとって大きなものでしたが、勝利の余韻に浸っている余裕はありません。勝っておらず、次戦に向け今一度日々の練習に全力で取り組み、日常生活すべてを通して自身を律しながら準備を進めていくだけです。

多くの人が応援に駆けつけて下さる華やかな舞台を降りた後、誰も見ていないところでコツコツと地味な努力を継続することができるかどうか。たった一度の勝利に勘違いすることなく、今一度練習で苦しい思いをする覚悟をもたなくてはなりません。11月2日（日）、3日（月祝）の3・4回戦ではなく、そこまでの練習、日常生活こそが本当の勝負です。日々の勝負に逃げずに立ち向かったとき、試合結果は勝手についてくると毎日のように選手と確認しています。